

答申の骨子(案)及び考え方等について

1. 答申の構成「目次案」について

- 本年9月25日に取りまとめられた「中間取りまとめ」では、本年4月30日の合同部会で示された8つの「検討の視点」に沿って、基本的な考え方や取り組むべき施策がそれぞれ記された。
- 最終答申では、以下のとおり「物流の目指すべき将来像」を新たに書き記すとともに、その実現に向けた「基本的考え方」と「具体的な施策等のあり方」という構成に、組み替えることとしたい。

はじめに

1. 審議の経緯について
 2. これまでの物流政策の総括について
 3. 新しい物流像の確立と明示に向けて
- I. 物流を巡る社会経済状況の変化
 - II. 物流の目指すべき将来像
 1. 生産性の高い物流へ
 2. 持続可能性のある物流へ
 - III. 今後の物流政策の基本的な方向性等
 - III-1. 基本的な考え方
 1. 物流生産性革命の実現～新たな付加価値等の創造～
 2. 未来へ続く魅力的な産業への変革
 - III-2. 将来像の実現に向けた取組の進め方
 1. 新たな連携を生み出す基盤の整備
 2. 先進的技術の活用
 - IV. 物流の目指すべき将来像の実現に向けた具体的施策等のあり方
 1. 物流生産性革命の実現
 - 1-1. 潜在的輸送力等の発揮～究極的に効率化された物流～
 - 1-2. 物流フロンティアへの挑戦
 2. 未来へ続く魅力的な産業への変革
 - 2-1. 多様な人材が活躍出来る就業環境の整備等
 - 2-2. 環境負荷の低減等社会への貢献
 3. 物流政策推進に当たっての留意事項

おわりに

2. 「I. 物流を巡る社会経済状況の変化」における記載概要

- 物流を取り巻く社会経済に加え、物流自体の状況の変化についての記述を行う。

I. 物流を巡る社会経済状況の変化

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

- ・2030年には生産年齢人口が2010年比で約8割まで減少。
- ・中高年層への依存度が強いトラック運転手不足の深刻化
- ・人口減少により、地方部での配送効率も大幅低下

(2) 国際競争の激化と本邦企業のアジア域内での経済活動の活発化

(3) 情報通信技術等の技術革新

(4) 災害リスクの高まり

(5) 地球環境問題とエネルギー制約

(6) 貨物の小口化、多頻度化の進行と顧客ニーズの多様化【一部新規】

- ・貨物の小口化・多頻度化の進行
- ・当日・翌日配送等のリードタイムの短縮
- ・電子商取引の市場規模拡大等に伴う宅配便の取扱個数の増加
- ・配送時間帯や受取場所の指定等ニーズの多様化

(7) 労働法制の見直し及び生産性向上に向けた動き【新規】

- ・月60時間を超える時間外労働に係る割増賃金率(50%以上)について、中小企業への猶予措置を廃止する労基法等の一部改正法案の閣議決定(継続)

(8) 1億総活躍社会の実現に向けた動き【新規】

3. 「Ⅱ. 物流が目指すべき将来像」についての記載概要

- 本年9月25日に取りまとめられた「中間取りまとめ」では、「将来の社会経済情勢の変化を見据え、その中で物流がどのような役割を果たし、社会に貢献していくか、物流システムとしてどのように発展を遂げていくか、という物流の将来像を明確にしていく必要がある。」と記されていることから、最終答申において「物流の目指すべき将来像」についての記述を行う。
- 特に、製造業や流通業等の荷主企業のニーズに応えることはもちろんであるが、それらに依存した存在にとどまらず、今後、1つの独立した産業として、自らがどのような付加価値を生み出し、どのように社会へ貢献していくのか、といった点を明らかにする必要がある。
- 答申素案における将来像としての概略は次のとおり。
 - ・事業の省力化・効率化を進めるなど時代を先取り
 - ・自らが新たな価値・新たなサービスを次々と生み出し、新たな市場の開拓等を行う
 - ・社会に貢献し、魅力的な産業へと変革

物流は、その時々¹の社会経済や顧客ニーズの変化に的確に対応することにより、質の高いサービスを提供し、事業を発展させてきた。

少子高齢化・人口減少が深刻化していく中、物流には、持続的な経済成長と豊かな生活を支えていく役割が期待されている。

そのため、将来の物流は、これまで展開してきた事業の省力化と更なる効率化を進めるなど時代変化への対応が求められているが、そうした受動的な改善に終始することなく、多様な主体との連携・協力の下に、自らが新たな価値、サービスを次々と生み出し、海外を含めた新たな市場の開拓等を行うことによって、国内外の経済活動の仕組みや人々のライフスタイルを変化させ、未来を創っていく産業として、社会の期待に応え続ける存在となることが望まれる。

また、確実に進行する人口減少・少子高齢化を見据えて、就業環境の改善等により多様な人材が活躍出来る環境を整え、あわせて、社会への貢献を通じて魅力的な産業となること。

こうした物流の目指すべき将来像を実現していくに当たっては、次の方向性に沿って、変革を進めていくことが必要。

1. 生産性の高い物流へ

(1) 省力化と更なる効率化の促進

物流事業者同士が連携・協力することはもちろんのこと、荷主や自治体、インフラ管理者等の多様な主体との連携・協力関係を確立することにより、省力化された効率的な貨物輸送を標準化することが必要。

(2) 新たな市場の開拓等

海外を含め新たな市場の開拓するとともに、新たな価値、新たなサービスを生み出していくことが必要。

2. 持続可能性のある物流へ

(1) 就業先として魅力ある物流へ

女性を含め年齢に関わりなく誰もが就業し、活躍出来る環境を整えるとともに、賃金の上昇を含め、やり甲斐と誇りを持って働くことの出来る「働きたい職場」へと変革することが必要。

(2) 社会に貢献する物流へ

環境負荷の低減をはじめとする環境対策、大規模災害時における支援物資の円滑な輸送に貢献するなど、社会における物流の存在価値を更に向上させ、より一層魅力ある産業へと変革することが必要。

4. 「Ⅲ. 今後の物流政策の基本的な方向性等」と「Ⅳ. 物流の目指すべき将来像を実現するための具体的施策等のあり方」における記載概要

- 目指すべき将来像の実現に向けた「Ⅲ. 今後の物流政策の基本的な方向性等」について、どのようなキーコンセプトの下でまとめるべきかについて、素案では、次の2つを政策の柱と整理した。
 - 「1. 物流生産性革命の実現」
 - 「2. 未来へ続く魅力的な産業への変革」
 - これら2本の政策の柱の下、共通した取組の進め方として、素案では、以下の2つを挙げることにした。
 - 「1. 新たな連携を生み出す基盤の整備」
 - 「2. 先進的技術の活用」
 - さらに、「Ⅳ. 具体的施策等のあり方」を記述することとし、「1. 生産性革命の実現」に向けては、以下の考え方の下に、省力化・効率化に向けた施策を実施するとともに、新たな市場の開拓等を進めることにした。
 - 「1-1. 潜在的輸送力等の発揮」
 - 「1-2. 消費者との対話を通じたライフスタイルの変革」
 - 「1-3. 物流フロンティアへの挑戦」
 - また、「2. 未来へ続く魅力的な産業への変革」に向けては、多様な人材が活躍し、誰もが「働きたい職場」へと変革するための「2-1. 就業環境の整備等」に加え、環境負荷の低減をはじめとする積極的な「2-2. 社会への貢献」を通じ社会における物流の存在価値の更なる向上等に係る施策を位置付けることにした。
- (別添 施策体系図参照)

Ⅲ. 今後の物流政策の基本的な方向性等

Ⅲ-1. 基本的な考え方

1. 物流生産性革命の実現～新たな付加価値等の創造～
 - (1) 潜在的輸送力等の発揮
 - (2) 物流フロンティアへの挑戦【新規】
2. 未来へ続く魅力的な産業への変革
 - (1) 就業環境の整備
 - (2) 社会への貢献【新規】

Ⅲ-2. 将来像の実現に向けた取組の進め方

1. 新たな連携を生み出す基盤の整備【一部新規】
2. 先進的技術の活用

Ⅳ. 物流の目指すべき将来像の実現に向けた具体的施策等のあり方

1. 物流生産性革命の実現

1-1. 潜在的輸送力等の発揮～究極的に効率化された物流～

- (1) モーダルシフトの更なる推進
- (2) トラック輸送の更なる効率化
- (3) 物流ネットワークの拠点高度化
- (4) 国際コンテナ戦略港湾(京浜港、阪神港)、貨物鉄道等の既存

インフラのストック効果の一層の発現

- (5) 過疎地等における持続可能な物流ネットワークの構築
- (6) 物流の高度情報化・自動化【新規】

1-2. 物流フロンティアへの挑戦

- (1) 都市内物流マネジメント
- (2) 消費者との対話を通じたライフスタイルの変革
- (3) 海外展開をはじめとする新たな市場の開拓等【一部新規】

2. 未来へ続く魅力ある産業への変革

2-1 多様な人材が活躍できる就業環境の整備等

- (1) 就業環境の改善と定着率の向上【新規】
- (2) 業界イメージの改善【新規】
- (3) 人材の確保・育成【一部新規】

2-2. 環境負荷低減等社会への貢献

- (1) 地球環境対策への貢献
- (2) 災害対応力の強化等安全・安心の確保への貢献【一部新規】
- (3) 活力ある地域づくりへの貢献

3. 物流政策を推進する上での留意事項

- (1) 物流に関する国の他の計画等との調和の必要性
- (2) PDCAサイクルの徹底

これまでの合同部会・小委員会において出された主な意見等

1. 将来像関係

- a. 物流のあるべき姿というものがクリアになっていない。物流のあるべき姿像というものを明確にしなければ国民は理解しがたい。
- b. 物流政策としてあるべき姿、理想論というものを掲げるべき
- c. 安倍政権では、財政健全化に資するような形で経済成長をやっていこうということになっており、物流政策の取組もこれに繋がるのではないかと考えている。
- d. いくら基盤がしっかりしていても、ソフトの部分での物流が動かなければ、結局国民生活の豊かさは支えられない。
- e. 物流分野における公共・社会性を1つの柱にしてはどうか。

2. メッセージ・副題関係

- a. 物流の必要性とか重要性といったもののメッセージを国民にどう伝えるべきかが大変重要。
- b. 物流のサービスレベルをどこに求めるか、ゆっくりでもいいサービスとか。国民の理解は、よいサービスならば高くても仕方ないというのが現実。
- c. 国民に向けてのレポートという要素をもう少し強化すべき。物流といったらクールだね、とかビューティフルだねとなるようなところまで持って行く覚悟を。

3. 連携の必要性関係

- a. 広域物流ではモード間の連携・シームレス化が重要。物流分野での新たなパートナーシップを構築すべき
- b. 企業間の連携をもっと促すべきで、共同化の促進方策を含め議論すべき。
- c. 新たな連携に関して、民間事業者も積極的に、気持ちよく参加できる体制作りも重要。

4. 労働力不足対策関係

- a. ドライバー不足が深刻化しており、従来の安い運賃で長距離トラック輸送が出来るという前提で動いてきたこれまでの物流システムを、大きく見直さなければならぬ時代に入ってきている。環境問題対応、あるいはリスク対応といった問題にも対応した物流システムの再構築が必要。
- b. 物流活動における生産性の向上、労働力不足に対応した省力化された物流システムを構築することが重要。

5. 就業環境の改善関係

- a. どんなに制度が整っても、物流網が整っても、中で働く人が幸せでないと申し訳ない。物流業界の人材に対して、みんなが幸せになれるような形にすべき。
- b. 魅力的な職場にしていくための政策として、どんな支援ができるか、今一度しっかり考えて押し出さなければ、物流が途絶えてしまう。

将来の物流が果たすべき役割

人口減少下においても、① 持続的な経済成長 と ② 豊かな暮らし を支えていく役割が求められる。

物流の将来像

多様な関係者との連携・協力を進めることや、先進的な技術を活用することにより、

- 事業の省力化・効率化を進めるなど時代を先取り
- 自らが新たな価値・新たなサービスを次々と生み出し、新たな市場の開拓等を行う
- 本業を通じた社会貢献により社会における物流の存在価値を更に向上させ、魅力的な産業へと変革

国内外の経済活動の仕組みや人々のライフスタイルを変化させ、
未来を創っていく産業として、社会の期待に応え続ける存在へ

物流生産性革命の実現

潜在的輸送力等の発揮～究極的に効率化された物流～

- (1) モーダルシフトの更なる推進
- (2) トラック輸送の更なる効率化
- (3) 物流ネットワークの拠点高度化
- (4) 既存インフラのストック効果の一層の発現
- (5) 過疎地等における物流ネットワークの構築
- (6) 物流の高度情報化・自動化

物流フロンティアへの挑戦

- (1) 都市内物流マネジメント
- (2) 消費者との対話を通じたライフスタイルの変革
- (3) 海外展開をはじめとする新たな市場の開拓等

未来へ続く魅力的な産業への変革

多様な人材が活躍出来る環境の整備等

- (1) 就業環境の改善と定着率の向上
- (2) 業界イメージの改善
- (3) 人材の確保・育成

将来像の実現に向けた施策の進め方
新たな連携の構築 先進技術の活用

社会への貢献

- (1) 地球環境対策への貢献
- (2) 災害対応力の強化等安全・安心の確保への貢献
- (3) 活力ある地域づくりへの貢献